

第2回 東京2025デフリンピックに係る大会準備実務者会議 議事次第

日時：令和7年11月5日（水）13:00～
場所：東京都庁第一本庁舎33階 特別会議室N1

- 1 セキュリティ体制について**
- 2 医療体制等について**
- 3 多様な人々の参画について**
- 4 デフリンピックスクエアの設置について**
- 5 DEAF SPORTS HOUSEについて**
- 6 ユニバーサルコミュニケーション（UC）について**

1 セキュリティ体制について

【基本方針】

- 特定エリアのIDチェックによるアクセスコントロール等で安全を確保
- VVIP来場時には、警備員の増強など特別な警備体制へ移行

2 医療体制等について

- 東京消防庁、東京都医師会、都立病院などと連携し、医療救護体制を構築
- きこえない選手・関係者に配慮した医療サービスを提供

医療体制

【救護所】

- 全競技会場に、医療従事者が常駐する救護所を設置し、応急処置や医療機関への搬送判断を実施
- 開閉会式は、多くの選手団や観客が来場するため、都医師会の協力も得て、体制を強化するとともに東京消防庁の現地本部も設置

【大会協力医療機関】

- スムーズな救急搬送を実現するため、都立病院などの医療機関に協力を依頼



【その他の取組】

- 応急処置や医療機関の受診の際に、選手の状況を的確に把握できるよう選手は「救急医療情報カード」をIDカードホルダーに携行
(既往歴、服用薬、アレルギーの有無などを記載)
- UDトーク、指差しカード、ポケトーク、筆談ボードなど各種ツールを活用



3 多様な人々の参画について

- 障害のあるなしなどに関わらず、多様な人々が大会運営に参画することで共生社会の実現に寄与

1 多様な人々の参画

- 大会時には、約3,500人がボランティアとして活動予定
- 上記に加えて、筑波技術大学や協賛企業から大会サポートスタッフが活動に参加
- 障害のあるなしなどに関わらず、多様な人が参画



2 大会に向けた準備状況

- 大会時の円滑な活動に向けて、デフリンピックの特性を踏まえたオンライン研修を実施

<主な研修内容>

- きこえる・きこえないなど多様な人々との協働への心構え
- 国際手話、日本手話言語、UC機器による簡易なコミュニケーション など



- 国際手話通訳に加え、選手や関係者を円滑にサポートするため、

ボランティアの中で国際手話スキルを有する方(約400人)を各会場に配置

→ 大会時を想定したロールプレイング形式の国際手話体験会を10月に実施

- ボランティア文化の更なる定着に向け、大会後は、ボランティアレガシーネットワーク等を活用し、終了後の継続的な活動につなげていく

<日本手話言語研修資料より抜粋>

4 デフリンピックスクエアの設置について

大会運営本部や輸送ハブ、メディアセンター等の機能を有する大会運営拠点であるとともに、多くの人々がろう者の文化への理解を深め、東京の魅力を体験できる取組などを展開する文化発信拠点として、デフリンピックスクエアを設置

1. 概要

■期間

令和7年11月15日～26日（12日間）

大会開催に合わせて開設。IDカード発行などの一部業務は大会に先行して実施

■会場

国立オリンピック記念青少年総合センター

大会運営等に対応する施設を保有。様々な場を一度に提供し、事業を効果的に展開

■対象

選手等の大会関係者、都民等

大会関係者に加え、多くの都民が気軽に参加できるプログラム等を実施

2. 設置する機能

①大会本部機能

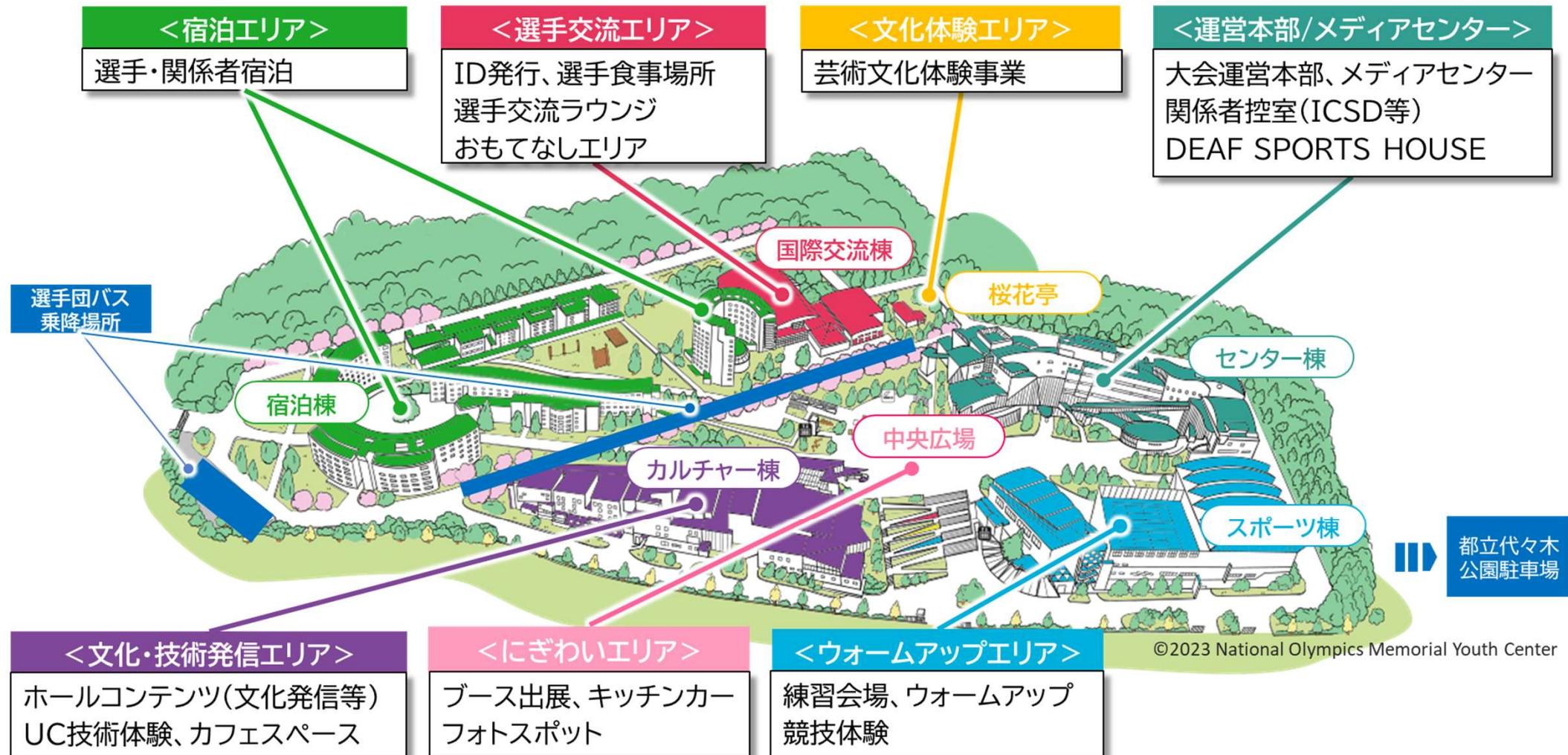
大会運営本部や輸送のハブ、メディアセンター、練習会場等の機能をもつ大会運営拠点として、デファスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるよう大会を運営する

②文化発信機能

デフスポーツやろう者の文化への理解を深めるコンテンツをはじめ、ユニバーサルコミュニケーション技術や東京の芸術文化に触れる機会など、多様な人々が一緒に楽しめる多彩なプログラムのショーケーシングを行う

デフリンピックスクエアを通じて、大会を成功させ、誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会の実現に繋げていく

デフリンピックスクエア 全体マップ（案）



主な機能・コンテンツ一覧（案）

エリア名	場所	機能・コンテンツ	期間	運営	備考	
運営本部 メディアセンター	センター棟	大会運営本部(MOC)	10日～27日	デフリンピック準備運営本部	【オープン時間(一般来場者)】 9:00～20:00 ※コンテンツによって運営時間は異なります。	
		選手団問合せ窓口・スポーツインフォメーションセンター(SIC)	11日～27日	デフリンピック準備運営本部		
		メディアセンター	11日～26日	デフリンピック準備運営本部		
		選手団用会議室	11日～26日	デフリンピック準備運営本部		
		関係者諸室(ICSD、ろうあ連盟、東京都)	11日～27日	各主体		
		DEAF SPORTS HOUSE	15日～26日	全日本ろうあ連盟		
ウォームアップエリア	スポーツ棟	練習会場(バレー・ボール/バスケットボール)	15日～25日	デフリンピック準備運営本部	【入場料】 無料	
		ウォームアップエリア	12日～25日	デフリンピック準備運営本部		
		競技体験(子供観戦事業、デフスポーツ・コミュニケーション体験)	15日～25日	東京都		
にぎわいエリア	中央広場	フォトスポット/スタンプラリー	15日～26日	デフリンピック準備運営本部	※14日のオープニングイベントに合わせて、一部プレオープンを予定しております。	
		被災地PRブース	15日～26日	東京都		
		ヘブンアーティスト	15日～16日、22日～24日	東京都		
		マスコットグリーティング	22日～24日	東京都		
		キャラバンカー	15日～26日 ※14日到着式を予定	全日本ろうあ連盟		
各エリア	カルチャー棟	ブース出展(協賛企業等)/キッチンカー	15日～26日	デフリンピック準備運営本部	※一部、選手・関係者のみ利用可能なエリア及びコンテンツがございます。	
文化・技術発信エリア		ホールコンテンツ(文化発信等)	15日～26日	デフリンピック準備運営本部・東京都		
		提灯リコグニション	15日～26日	デフリンピック準備運営本部		
		カフェスペース	15日～26日	デフリンピック準備運営本部		
		デジタル技術展示・体験プログラム(みるTech)	15日～26日	東京都		
		東京都ブース(観光PR、アニメ展示)	15日～26日	東京都		
文化体験エリア	桜花亭	芸術文化体験事業(茶道・着付け・生け花体験)	16日～25日	東京都		
選手交流エリア	国際交流棟	選手交流ラウンジ (都内観光ツアー、折り紙体験、銭湯PR、応援メッセージ等)	16日～25日 ※都内観光ツアー：20日～25日	デフリンピック準備運営本部・東京都		
		おもてなしエリア(縁日、キッチンカー)		デフリンピック準備運営本部		
		ID発行	11日～26日	デフリンピック準備運営本部		

実施コンテンツ



にぎわいエリア(中央広場)

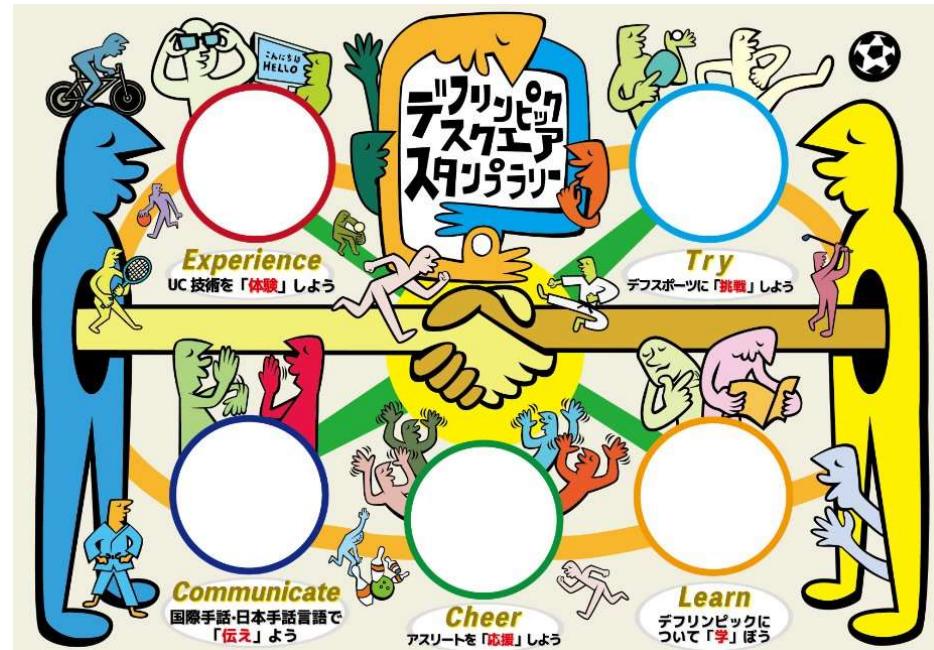


今大会のエンブレムをモデルとした「フォトスポット」や、デフリンピックスクエアに設置されたスタンプを探して集める「スタンプラリー」、協賛企業等の取組や東北3県と能登の魅力を発信する「ブース出展」、東京2025デフリンピック応援隊による「マスコットグリーティング」など、様々な取組を展開

フォトスポット(イメージ)



スタンプラリー(台紙)



※門秀彦氏によるデザイン

にぎわいエリア(中央広場)



東京205デフリンピック応援隊グリーティング

■東京2025デフリンピック応援隊

- ・東京2025デフリンピックを多くの方々が応援し、大会に親しみを持ってもらえるよう、各自治体等のキャラクターによる「東京2025デフリンピック応援隊」を結成
- ・全国各地で大会に向けた気運醸成やデファスリートを応援し、大会を盛り上げます。
- ・全国のキャラクター165体が参加しています。(10月末時点)
- ・応援隊のキャラクター一覧

<https://www.deaflympics2025.com/brand/mascot#gsc.tab=0>



■東京2025デフリンピック応援隊グリーティング

- ・応援隊の一部キャラクターがデフリンピックスクエアに登場し、グリーティングを実施します。



【出演予定キャラクター】 11/22(土)～24(月・祝)実施

自治体等名	キャラクター名
東京2025デフリンピック公式マスコット ゆりーと	
東京都新宿区 新宿あわわ	
東京都品川区 シナカモン、ビーチュウ、やたたま	
東京都府中市 ふちゅこま	
公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団 SUSIE(スージー)	
秋田県大館市 はちくん	
埼玉県 コバトン&さいたまっち	
埼玉県所沢市 トコろん	
埼玉県朝霞市 ぽぽたん	
埼玉県三芳町 みらいくん のぞみちゃん	
神奈川県 かながわキンタロウ	
神奈川県相模原市 さがみん	
神奈川県大井町 すいっぴー	
神奈川県藤沢市 ふじキュン♡	
神奈川県秦野市 もりりん	
神奈川県愛川町 あいちゃん	
大阪府 枚方市 枚方市キャラクター ひこぼしくん	
鳥取県 トリピー	
厚生労働省所管 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 アビリス	

文化・技術発信エリア(カルチャー棟)



ろう者の文化や日本の伝統芸能の発信などを実施する「ホールコンテンツ」や、誰もが気軽に楽しめ、交流できる、デジタル技術を活用した展示・体験プログラム「みるTech(テック)」を実施。その他、「カフェスペース」や「東京観光PRブース(東京観光情報センター)」、「アニメ展示(アニメ東京ステーション)」なども設置

ホールコンテンツ

■主なコンテンツ

- 手話狂言
- トークショー
- ライブペインティング・ワークショップ
- ヘブンアーティスト
- アトラクション(書道、和太鼓、阿波踊りパフォーマンス)
- きこえない・きこえにくい子どもたち等による舞台(舞饗詩「田園」)
- 全日本ろうあ連盟コンテンツ など

★詳細はこちらから
(11/5 17時に更新予定)



【ご案内】

開催に先立ち、メディア及び関係者向けに「手話狂言」を実施いたします。
ぜひ取材にお越しください。

日時:11月14日(金)18:00～18:45

会場:デフリンピックスクエア文化・技術発信エリア(カルチャー棟小ホール)



文化・技術発信エリア(カルチャー棟)



手話狂言



ライブペインティング



アトラクション

選手・関係者等、海外から来る方向けにきこえる・きこえないに関わらず楽しむことができ、日本文化を感じられるパフォーマンスを披露



書道パフォーマンス



和太鼓パフォーマンス



阿波踊りパフォーマンス

※写真はすべてイメージ画像

東京観光情報センター



※画像は東京観光情報センター 東京都庁

アニメ東京ステーション



ヘブンアーティスト

東京都が実施する審査会に合格して都内の様々な場面で活動するヘブンアーティストがパフォーマンスを披露(にぎわいエリアでも実施)



文化・技術発信エリア(カルチャー棟)



提灯リコグニション

東京2025デフリンピックの協賛企業(トータルサポートメンバー)の名前や「Edo Tokyo」のロゴ入り提灯を並べたリコグニションをカルチャー棟中庭に設置

■イメージ



文化体験エリア(桜花亭)



江戸東京の芸術文化を体験・体感する機会として「茶道・着付け・生け花」の体験を選手・関係者向けに実施

※受付は選手交流エリア(国際交流棟)の選手交流ラウンジに設置

江戸東京の芸術文化体験

■茶道体験

11月16日(日)～25日(水)
12:00～19:00



■着付け体験

11月16日(日)～20日(木)
12:00～19:00



■生け花体験

11月21日(金)～25日(水)
12:00～19:00



選手交流エリア(国際交流棟)



選手同士が交流できるよう、パブリックビューイングや日本の伝統的な遊びを体験できる「選手交流ラウンジ」や、選手が日本文化を体験できるよう「おもてなしエリア(縁日)」を設置。交流ラウンジ内では、江戸から続く東京の文化の一つである「銭湯PRブース」やデフリンピックスクエア発着の「都内観光ツアー」など様々なコンテンツを展開

選手交流ラウンジ

■主なコンテンツ

- パブリックビューイング
- 日本の伝統おもちゃ体験(けん玉、こまなど)
- 選手に向けた応援メッセージ
- 銭湯PR
- 都内観光ツアー
- 折り紙体験



おもてなしエリア(縁日)

■主なコンテンツ

- 射的、忍者手裏剣ゲーム、輪投げ等
- キッチンカー



オープニングイベント・メディアツアー等



デフリンピックスクエアのオープンを記念し、11月14日(金)の記者会見に合わせて、以下のイベントを実施

【11月14日(金)PM】

- ・13:00～13:30 オープニングイベント @小ホール
- ・13:30～14:30 記者会見 @小ホール
- ・14:45～15:45 メディアツアー @デフリンピックスクエア全体
- ・16:00～17:00 キャラバンカー到着式 @中央広場
- ・17:00～17:45 DEAF SPORTS HOUSE @センター棟310
- ・18:00～18:45 手話狂言 @小ホール

※19:00より全日本ろうあ連盟スポーツ委員会主催の日本選手団結団式が
デフリンピックスクエア内(大ホール)にて行われる予定です。



■オープニングイベント ※メディア・関係者向け

【登壇団体(予定)】

国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)
全日本ろうあ連盟
東京都
東京都スポーツ文化事業団
協賛企業3社(アシックス、トヨタ自動車、ソフトバンク)
マスコット(ゆりーと、Susie)

【内容】

登壇者挨拶、デフリンピックスクエア紹介、テープカット

■メディアツアー

デフリンピックスクエア内の各コンテンツをご紹介

【ルート(予定)】

- ①文化・技術発信エリア(カルチャー棟1F、2F)
- ②にぎわいエリア(中央広場)
- ③ウォームアップエリア(スポーツ棟1F)

5 DEAF SPORTS HOUSE について

- 以下の方針をもとに、デフリンピックスクエア内に「DEAF SPORTS HOUSE（デフスポーツハウス）」を設置
- デフスポーツ・デフリンピックの啓発や、大会に向けた全国の気運醸成活動の取り組み紹介等を行うとともに、ろう者の文化に触れ、きこえる人ときこえない・きこえにくい人とが交流できる機会を提供

➢ デフスポーツの啓発

デフスポーツやデファスリートの認知度向上を図ることを目的として、日本選手団、デフリンピックやデフスポーツ等についてパネルや映像・写真の掲出、パンフレット配布等を行う

➢ ろう者の文化体験

ろう者の文化（芸術等）を鑑賞できる場を提供することで、ろう者の文化を伝える

➢ 交流機会の提供

来場者や各国の選手が交流できる交流スペースを設けることで、きこえないことや手話言語を知り、共生社会について考える機会を創出する



▲2021ブラジルデフリンピック
スクエアの状況

実施概要

■日程

2025年11月15日～26日 計12日間
9:00～19:00（開閉会式の日のみ17:00まで）

■場所

センター棟 3階 310研修室

■対象者

一般来場者、選手、
大会関係者等

■展示内容

デフスポーツ・デフリンピックの啓発

- ・全国キャラバン活動展示
- ・デフスポーツ応援漫画パネル展示
- ・デフスポーツ応援漫画動画再生
- ・デフリンピック100年の歴史パネル展示
- ・今大会メダルレプリカ展示

文化体験・交流

- ・応援メッセージボードの設置
- ・椅子や机等、交流できるスペースの設置
- ・ろう者の文化のボード展示
(国内で活躍しているろう者の作品を紹介)

6 ユニバーサルコミュニケーション（UC）について

- これまで、各種競技会等、様々な機会で技術実証を行ってきた。大会本番では、UC技術を多様な場面で活用、PRを通じ技術の社会実装につなげ、大会の確かなレガシーとしていく。

大会時の取組概要

1 競技会場



- 選手・関係者の円滑なコミュニケーションをサポート
- 最新技術で誰もが“音を見る” “音を感じる”競技観戦



サイネージを効果的に活用して
わかりやすく情報を提供



競技解説等を
スマートグラスで見る

2 デフリンピックスクエア



- 「sure talk」など最新技術を展示・PR
- 誰もが楽しみ交流できる魅力的なコンテンツを用意



国内外の選手が、国際手話を多言語に
変換する「sure talk」で交流



誰もが楽しめる技術体験を通じ
東京の魅力をPR



3 街なか



- 民間施設とも連携し、UCを東京の街に広げ、
きこえない・きこえにくい方をおもてなし
- 東京全体のアクセシビリティを向上



商業施設や選手宿泊ホテルで
UC技術を積極的に活用し会話

遅延等の駅でのアナウンスをスマホ
上で確認

- デフ競技団体やきこえない当事者からヒアリングし、各種競技大会でUIC技術のテスト運用を実施
- より先進的な技術活用が見込まれる競技では、誰もが競技を楽しめる新しい観戦スタイルを提示

1 競技会場の取組概要

テスト運営を踏まえた取組内容の具体化

- **競技や競技会場の特性に応じて、観客により情報が伝わりやすいよう、サイネージなど導入機器や設置場所をブラッシュアップ**
- **運営諸室等に仮設ビジョンを設置し、選手や大会関係者に必要な情報を文字で分かりやすく表示**

最新技術で誰もが”音を見る” ”音を感じる”競技観戦

➤ 競技解説等を「スマートグラス」で体感

[水泳：東京アクアティクスセンターで実施]

- 実況・タイム・選手情報を文字で見ながら競技観戦
- 会場案内、競技日程等の情報も取得可能



スマートグラス



サイネージ
(日本手話)

サイネージ
(国際手話)



リボンビジョン
(日本語字幕)



リボンビジョン
(英語字幕)

(駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場での取組)

- リボンビジョン：会場アナウンスを日・英テキストで表示
- サイネージ：日本手話・国際手話通訳映像を表示

➤ 競技音を振動で体感

[柔道：東京武道館で実施]

- 投げ技などで発生する競技音を、装着したデバイスの振動で体感



「Hapbeat」

○ 選手の交流拠点となるデフリンピックスクエアでは、誰もが楽しみ交流できるデジタル技術のショーケーシング

「みるTech」を展開、スタートアップ等25社程度が開発する、UC技術やVRなど多様なコンテンツを展示・PR

2 「みるTech」概要（出展企業等）

- 最新技術の体験を通じて、国内外のアスリートから実際の使用感などを収集、さらなるバージョンアップを図る
- 「Edo Tokyo」の魅力を発信するスペシャルコンテンツも用意

「sure talk」（ソフトバンク）



国際手話、アメリカ手話を多言語テキストに
変換・表示できる改良版を初披露

「AR（拡張現実）グラス」
(Signers)



相手の顔を見ながら遠隔地の
手話通訳映像を確認

「デフVR」（シー・エヌ・エス）



VRで、カフェでの注文など日常生活
におけるきこえない世界を体験

「盲ろう者向けデバイス」
(ハートウェアラボ)



盲ろう者との会話に使われる
「指點字」とテキストを変換

「AVATARIUM（アバタリウム）」
(pocket RD)



誰でも簡単にアバターになり、自身が江戸の
街並みに登場、「Edo Tokyo」を体感

「HADO」(meleap)



拡張現実で忍者と対戦するARスポーツ

- 都立施設への透明ディスプレイ設置、鉄道駅・区市町村への補助で、UC技術の社会への普及を促進
- あわせて、**国内外から多くの選手・観客が集う大会の機会を捉え、都立・民間施設と連携、UC技術等の活用を通じて、東京の更なるアクセシビリティ向上につなげるムーブメント（オールウェルカムTOKYO～デフスペシャル～）を展開**



3 街なかでの取組（概要）

【日比谷エリア（オリエンテーリング競技会場周辺）で】

- 日比谷公園で、透明ディスプレイを活用、手話通訳付きガイドツアー・施設紹介動画放映を実施
- 東京ミッドタウン日比谷に呼びかけ、27の飲食店等テナントが多言語翻訳タブレットを活用



飲食店でのタブレットの活用
(イメージ)



みえるアナウンス (イメージ)

【駅で】

- 東京メトロが、駅のアナウンスをスマホで確認できる「みえるアナウンス」を全駅展開
- JR東日本が、会場最寄り駅で透明ディスプレイを活用



ホテルの実証 (イメージ)

【選手宿泊ホテルで】

- 全てのホテルが「デフレンドリーホテル」として、多言語翻訳タブレットを活用
- UC技術の活用に意欲的な11ホテルと連携し、国際手話、アメリカ手話対応ができる「sure talk」をフロントで活用・実証

- 都立施設での透明ディスプレイ活用、機器導入補助を、大会後も各局主体で継続
- 都立公園や民間企業の取組も、選手のフィードバックを得て、改善しながら大会後も継続
⇒大会の確かなレガシーとして、東京の街にUCを浸透・普及させていく